

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

8 月月間来館者数 3221名
月平均来館者数 3466名
日平均来館者数 132名
通算来館者数 131694名

主張

9.23 久保山愛吉さんの追悼
の日を迎えるに当って

久保山氏遂に逝きぬとわれら
聞く五十四年の秋なかばの日
故中原綾子(歌人)はこう嘆
き、さらに
これを見よ全世界 人いちに
んのわたくしごとの死にはあ
らぬを
と怒りを歌いあげています。
いま、ビキニ事件の二十五周
年にあたり、第五福竜丸無線長
久保山愛吉さんの追悼の日を迎
え、この「わたくしごと」の死
ではなかった久保山さんの死を
もう一度心から思い起してみま
しょう。
水爆の犠牲者
久保山さんは一九五四年三月
一日に、アメリカがビキニ環礁
で行った水爆実験による「死の
灰」を浴びて、急性放射能症に
かかって亡くなられた水爆の世
界最初の犠牲者です。

第五福竜丸の被災自体が、全
く一方的な被害であったように
久保山さんの死は降って湧いた
ような災難だったので。
広島、長崎の原爆によって多
くの被害者が出ました。問題は
それによって核兵器の被害者は
二度と出なくなったのかどうか
です。答えはノーです。
むしろ、広島、長崎の原爆よ
りも何千倍も力のある水爆で現
れ、その犠牲者が引きつづいて
出ていることです。
ノー・モア・ビキニ
一九四六年の第一回ビキニ原
爆実験くらい、アメリカの核実
験は、本質的に核軍事演習とし
て行われてきていますが、それ
はますますエスカレートしてい
る核軍拡競争を背景としていま
す。
われわれは、広島、長崎のみ
ではなく、それに引きつづく核

実験、核軍事演習による核被害
にたいして、声を大きくして抗
議しつづけています。
去る八月九日の原水爆被害者
追悼会が、広島、長崎をはじめ
ビキニ、ネバダ、ムルロアその
他におけるすべての核被害者に
思をはせ、核廃絶を強く主張し
たように、九・二三久保山愛吉
氏追悼の日、われわれは核戦
争阻止の決意を固めるべきです。

ビキニ被災25周年

9・23 久保山愛吉 記念集会

79年9月23日(日) AM11:00
江東区夢の島 第5福竜丸展示館まえ広場

参加費なし 追悼式典、黙禱、献花
(メッセージ 電報 歓迎)

主催 財団法人 第五福竜丸平和協会

書評

前田哲男 著

棄民の群島

(時事通信社)

マイクロネシア被爆民の記録と
いうサブ・タイトルのついてい
る様に、ビキニ・エニウエトク
をふくむ核実験の行われた島々
の住民の被害を、刻明に追いか
け、その非人間的な現状にたい
する告発の書でもある。

一九七五年くらい、何回と
なくマーシャル群島を訪れ、目
で耳で取材してきた著者の記
録が、ついに出版されたとい
う感じがふかいが、ともすると、ヒ
ロシマ・ナガサキの被爆者のか
げに薄れているマイクロネシアの
被爆者の姿を知ってもらうため
にも、必読の書として推薦した
い。

第三五回理事会ひらかれる

― 当面の行動など決定 ―

九月四日、学士会館で平和協
会第3回理事会がひらかれ、去
る八月九日、原水爆被害者追悼
会の総括などが行われ、当面の
行動としては、九・二三久保山

報道面を賑わす福竜丸

― 高まる一般の関心に対応して ―

去る八月九日の第五福竜丸展
示館わきの久保山愛吉記念碑ま
え広場での原水爆被害者追悼式
の様子が、同夜N・H・Kの六
・四〇テレビとラジオで報道さ
れたほか、朝日、毎日の夕刊、
中国新聞の十日朝刊に写真入り
で報道され、一般の注目を引き
ましたが、毎日新聞の東京版・

編集後記

▽馬追いのひげのそよるに
秋は眼をとじて思いみるべし
長塚節ほどのせん細な神経でな
くても、秋の気配におどろかさ
れる今日、この頃になりました。
▽さすがに八月は原水爆問題で
マスコミを賑わせたようですが
それも八・六をすぎると俄かに
退き潮のように遠のき、高校野
球にとって替わるのが、ここ数
年のパターンのようです。

(H)

平和をねがう人々の声

久保山さんによせられた手紙

~ 1 ~

ビキニ事件がおこり、久保山さんが亡くなってから二十五年が過ぎました。平和協会に保管されている、ダンボール箱いっぱいの手紙の束は、国民の関心をいっしんに集めていた当時の状況を、ありありと思い起こさせてくれます。

久保山さんの病状の変化に伴ない、自分の家族のように、安心したり、心配したり、亡くなってからは、共に悲しみながら、残されたはず夫人や娘さんたちに励まし言葉綴った多くの手紙。その中の「代表的」なものを、これから何号かにわたって紹介しながら、第一回原水爆禁止世界大会がひらかれる原動力となった、当時の国民の素朴な生の声に触れたいと思います。全国からの手紙

今回これらの手紙をいくつか

- ① 児童生徒からの手紙 (個人) 三六六通
 - ② 学校関係からの手紙 七〇三通
 - ③ サークル誌 五誌
 - ④ 一般からの手紙 六五六通
 - ⑤ 久保山家宛年賀状 一六六通
 - ⑥ 総数 一、八九六通
- 手紙は地元静岡岡を筆頭に、当時アメリカの占領下の沖繩を除いて、すべての都道府県から寄せられました。(詳細は次号に)
- 尚、原爆投下地広島、長崎からの便りは、数、内容においても他県と変わらず、高知のような漁港のある県からの反響が強いことに、考えさせられるものがあります。
- 今回は感動的と思われた手紙を一通だけ紹介して、次回からの連載を期待していただきたいと思えます。

あゝ久保山さん

国府昌英

久保山さんが書いたあの日記先生から読んでいただいた時、ぼくはほんとうに「そうだ」と思った。久保山さんのようにいつもラジオで書いていた。

二十三日の朝、ラジオは放射能病がはげしくて、苦しむ息を

しだしたとつたえた。

その日の五時ごろ、くり山副院長らが、

「がんばってくれ、

がんばってくれ」

とはげましたら、

久保山さんは

「うん、がんばるよ

がんばるよ」といいながら、

ついに夜、六時五十六分、

この世から去ってしまった。

ぼくは家族のみんなにつたえた。

おかあちゃんは、

「うん、うん」といっていた。

おとうちゃんは、

「とうとう、やったのう」といった。

にが虫をかぶりつぶしたような、青い父の顔だった。

平和の時代に、

つみもない人が、

しらないまに、病気に

しらないまに、死んでいく。

あゝ久保山さん。

このおそろしさは、

日本のだれもが、

いや、世界全部の人たちが、

ききしったことであろう。

「すいそぼくだん」

「すいそぼくだん」

しかたがない、

しかたがないと、

人々のいう中に、

久保山さんは死んでいった。

(岡山県・総社小学校六年生)

紙面の都合により一部省略

原水爆被害者追悼式開く

去る八月九日、午前十一時から、第五福竜丸展示館の久保山愛吉記念碑前広場で、「原水爆被害者追悼式」を、平和協会が主催し、日本宗教者平和協議会の後援で、開催しました。

式典では、まずはじめに平和協会三宅泰雄会長が「広島・長崎・ビキニなどと続くすべての原水爆の被害者を追悼し、核兵器を一日も早く地球上から廃絶する運動を根強く続けなければ



ならぬ」とあいさつしました。つづいて報告に立った広田重道専務理事は「原水爆の被害者は広島・長崎だけではなく、ビキニ・ネバダ、最近では南太平洋ムルロア環礁におけるフランスの核実験で死亡した二人の被害者を含め、全世界にふえつづけています。

このことを改めて思いおこし、怒りをこめて全世界の原水爆被害者を追悼し、これ以上被害者を出さない願いをこめ、八月九日、長崎の日に、あえてこの第一回追悼式が計画された」と、今回の式典の意義について報告を行ないました。

集会は更に、作家の山口勇子さん、平和協会田沼肇・本多喜美の両理事などから寄せられたメッセージを招き、松井勝重日本宗平協常任理事のあいさつと読経の後、参加者が黙とうをささげ、献花し閉会しました。

来館者の声から



八月になると毎年平和運動がさかんになる。しかし、八月に

ならなくても平和運動はつづいている訳で、我々が忘れていただけである。職場にいて「戦争反対」などとさげんでみたところ、言葉に実感がこめられない弱さがある。

でも今日からはちがう気がする。実感をこめて語れるし、又りくつなして、ここに見学にくれば「平和」についての共通理解が得られるから。

館長さん、職員のみなさん、貴重なお話しと、配慮、ありがとうございました。

富沢

去年に引きつづき生徒をつれてきました。

戦争の原体験が教える側にも

教えられる側にも薄れてきた現在、目で見、手で触れられる資料が保存されている事の意義の大きさを感じています。今年は二年連続で参加した者もいるので、核兵器のもっている意味をより深める一つのきっかけにこの第五福竜丸をしたいと考えています。

大東学園教員 伊藤

一度きたかったことがやっと実現できました。

被爆者の家族として今も続く苦しみをかかえています。こうした思いは二度とあってはならないと思います。

この第五福竜丸の保存を原水爆禁止・戦争反対のよりどころにしたい。東京大空襲の資料館もこの近くを作ったらよいと思う。都内の小中高校生の見学と体育館の利用をかわせて全員参加するよう働きかけたい。

調布 田沼浩子